三豊市立高瀬中学校　令和４年度 校長通信 №７　令和５年２月６日

一歩、前進

新しい風を吹かせよう

新しい年になったと思ったら、もう一年の12分の1が終わってしまった。いつもながら時の経つのは早いと感じるが、年明け早々のある日、本校卒業生の同窓会に呼ばれた。学年主任をしていた学年なのだが、3年生になる時には転勤してしまったので、卒業には立ち会えていない。それでも声をかけてくれたことが、素直にうれしかった。たくさん話したかったが、新型コロナのために、挨拶をして記念撮影を終えるとほどなく会場を去らねばならなかった。

いったい、新型コロナにはいつまで悩まされるのか…、と気持ちが沈んでいたら、5月から新型コロナウイルスが「5類」になると発表された。それで直ちに安心はできないが、同じようなことの繰り返しからようやく抜け出せそうな期待もある。中学生も多くの影響を受けながらがんばってきた。どうせなら、ただ元に戻るだけで満足せず、日常が当たり前ではないのだという気付きを糧として、新しい風を吹かせてもらいたいものだ。今後の高中生の活躍に期待したい。

知的好奇心のすすめ③

科学の発達によって、人間は本来活動的で好奇心旺盛であるという理解は進んでいるはずだが、現実とのギャップは今なお大きい。ギャップの源は、「人間は本来怠け者であって、なんらかの不都合が生じないかぎり、活動的にはならない」という心理学の伝統的理論である。「人間は早い話食べるために働き、しかられるのが嫌だから学習するのだ」と。だから、様々なアメとムチが今も採用される。

今一度、人間は本来活動的で好奇心旺盛であるということを確認したい。①人間は退屈を嫌い、知的好奇心を満たすべく常に情報を求め探索している。②人間、とりわけ子どもは、適度に新奇な物に出会うと積極的にそれに近づき詳しく調べようとし、進んで質問などもする。③人間には本来、アメがなくても、少しでも上達したい、よくなりたいという向上心がある。……。

これら人間の本質的特性が広く浸透するためには、それ相応の環境が必要である。学校はその環境づくりにもっと積極的にならなくては、と思っている。

※参考：波多野誼余夫・稲垣佳世子『知的好奇心』

（校長：佐　藤　浩　二）